

## 交通安全施策の進捗状況と今後の取組方針について

## 1 施策の評価について

※個別施策の取組状況については別紙参照

## I 市民一人ひとりの交通安全意識の高揚

## (1) 活動指標の達成状況

## ① 各年代の特性に応じた段階的及び体系的な交通安全教育の推進

指標名	現状値 (平成27年度)	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)	達成率 評価
高校におけるスクエアドスト レイト(※)方式による交通安 全教室開催数〔計画期間中の5 年間累計〕	15校  〔平成23年度から 平成27年度の累計〕	10校  〔平成28年度から 平成32年度の累計〕	15校  平成30年度：5校  →	25校	60.0% △  ※1年間に5校 ずつ開催してい く場合の達成率 は100.0%
高齢者を対象とした地域の「交 通事故発生状況マップ」を活用 した交通安全教室実施回数 〔年間〕	—	112回/年	98回/年	100回/年	98.0% ◎
高齢ドライバーを対象とした ドライブレコーダーを活用し た交通安全教室開催数〔年間〕	1回/年	4回/年	3回/年	3回/年	100.0% ◎

※スクエアドストレイト…恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法。スタントマンが事故現場を再現してみせ、交通ルールの大切さを学ばせるもの。

## ② 自転車利用者への交通安全教育の推進

指標名	現状値 (平成27年度)	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)	達成率 評価
小学4年生の子ども自転車免許 事業の実施に併せて、5・6年生 に交通ルールの振り返り学習を 行う学校数〔年間〕 ※( )内は、子ども自転車免許 事業の実施校数	0校/年  (70校/年)	70校/年  (70校/年)	70校/年  (70校/年)	70校/年  (70校/年)	100.0% ◎
高齢者の自転車シミュレーター を活用した自転車教育受講者数 〔年間〕	430人/年	619人/年	686人/年	600人/年	114.3% ◎

## (2) 施策の柱の進捗

- 子どもから高齢者まで各年代の特性に応じた交通安全教室や、自転車利用者を対象とした体験型の交通安全教室を開催するなど、市民の交通安全意識の高揚や交通ルール遵守に向け、順調に取組を推進している。

## II 地域と連携した道路交通環境の整備

### (1) 活動指標の達成状況

#### ① 自転車利用環境の総合的整備

指標名	現状値 (平成27年度)	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)	達成率 評価
自転車走行空間の 整備延長〔累計〕	21.7km	40.0km	45.8km	57.7km	79.4% ○ ※1年間に 7.2km ずつ延 伸していく場 合の達成率は 105.8%

#### ② 交通事故多発地点等の安全性向上の推進

指標名	現状値 (平成27年度)	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)	達成率 評価
交通事故多発地点の 対策対処率	100%	83.3%	100%	100%	100.0% ◎

[参考]

No.	交通事故多発地点の対策箇所	事故件数 (平成24~27年)	備考
1	下栗町1742番地(下栗交番前交差点)	16件	H28 対策実施
2	天神1丁目1番11号(天神1丁目交差点)	13件	H30 対策実施
3	雀宮町118番地4(南図書館付近新幹線下交差点)	9件	H29 対策実施
4	中央1丁目10番12号(大銀杏交差点)	9件	H29 対策実施
5	今泉1丁目1番12号(上河原通り田川付近交差点)	8件	H29 対策実施
6	陽東4丁目18番15号(産業技術専門学校前交差点)	8件	H29 対策実施

### (2) 施策の柱の進捗

- ・ 現況の道路幅員や交通量などの道路状況に応じ、自転車走行空間の整備を進めているほか、通学路の合同点検や交通事故多発地点の安全性向上事業を実施するなど、安全・安心な道路交通環境の整備に向け、順調に取組を推進している。

### Ⅲ 地域における道路交通秩序の維持

#### (1) 活動指標の達成状況

##### ① 自転車の交通事故を防止するための地域活動の推進

指標名	現状値 (平成27年度)	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)	達成率 評価
自転車走行空間の整備箇所等における街頭指導の実施箇所数〔年間〕 ※( )内は、計画的に実施する街頭指導の総箇所数	— (7箇所/年)	3箇所/年 (10箇所/年)	3箇所/年 (10箇所/年)	3箇所/年 (10箇所/年)	100.0% ◎
自転車ヘルメット利用推進員の任命者数〔累計〕	250人	412人	495人	600人	82.5% ○ ※1年間に70人ずつ任命していく場合の達成率は107.6%

〔参考〕自転車利用者に対する街頭指導（平成30年度実績）

No.	自転車走行空間における街頭指導の実施箇所	回数
1	材木町通り・ユニオン通り西交差点	2回
2	睦町交差点	2回
3	元今泉4丁目交差点	2回

No.	自転車通行量の多い場所における街頭指導の実施箇所	回数
1	オリオン通り	11回
2	大曾2丁目交差点（競輪場通り）	2回
3	桜2丁目交差点	2回
4	平松町交差点（国道123号線）	2回
5	南大通り4丁目交差点（主要地方道宇都宮笠間線）	2回
6	アピタ宇都宮店西交差点（陽南通り）	2回
7	雀宮中央小学校南側交差点	1回

#### (2) 施策の柱の進捗

- ・ 地域等と連携しながら、自転車利用者に対する街頭指導や自転車ヘルメット利用推進員の任命を行うなど、地域における交通安全活動の充実に向け、順調に取組を推進している。

## 2 全体評価と今後の取組方針について

### (1) 全体評価

すべての基本施策は順調に進捗しており、各活動指標についても目標どおり取り組むことができている。今後も引き続き計画に掲げた各施策事業を着実に推進していくことを基本としながら、交通事故データなどから導き出される以下の課題への対応に重点的に取り組んでいく。

### (2) 課題と平成31年度取組方針について

#### ① 自転車の交通事故防止

自転車に関係する交通事故はこれまで減少傾向にあったが、平成30年の発生件数は前年より増加しており、交通事故全体に占める自転車事故の割合も上がっている。世代別人口当たりの自転車事故当事者数が多い高校生や中学生に対し、自転車の安全利用に向けた更なる対策が必要である。

また、市内全域で自転車走行空間の整備が着実に進んでいることから、安全・安心に通行できるよう、自転車利用者はもとより、ドライバーも含めたすべての道路利用者の理解を促進することが必要である。

##### ⇒ ○中高生を対象とした自転車安全利用教育の充実

体験型の自転車安全利用教室や、市内すべての中高生を対象とした自転車安全利用チラシを活用した教育を引き続き実施するとともに、来年度から新たに、民間企業と連携しながら、自転車事故の実態や安全運転のポイントについて学ぶ交通安全教室を開催していく。

##### ○自転車走行空間の理解促進

ドライバーを含むすべての道路利用者に、自転車走行空間について正しく理解していただけるよう、自転車走行空間の種類や通行方法などを記載したチラシを新たに作成し、関係機関・団体と連携しながら配布していく。

#### ② 高齢者の交通事故防止

高齢化の進展に伴い、交通事故全体に占める高齢者の交通事故の割合は年々増加しており、また、交通事故死者数に占める高齢者の割合も4割と高い状況にあることから、高齢者の更なる交通安全確保に向け、歩行者、自転車利用者、ドライバーなど、高齢者の状態に合わせた事故防止対策をより一層推進していく必要がある。

##### ⇒ ○高齢者に対する交通安全教育の充実

高齢者の歩行中・自転車乗車中の交通事故を防止するため、「歩行シミュレーター」や「自転車シミュレーター」を活用した交通安全教室を民間企業と連携して開催するなど、様々な場面における危険や回避方法を高齢者が体感しながら学ぶことができる機会を提供していく。

##### ○高齢ドライバーの交通安全対策の推進

高齢者に身体機能の現状を明確に認識してもらうため、自分の反応速度を測定できる「身体機能測定器」を活用した体験型の交通安全教室を開催するほか、高齢ドライバーとその家族向けに、安全運転や免許の自主返納などについて話し合ってもらい、契機となるようなパンフレットを作成し、警察や地域と連携しながら配布していく。